Kumamoto City
News Release

令和 8 年（2026 年）10 月 30 日

後藤是山生誕 140 年・没後 40 年記念企画展関連事業

解説講話「『かはがらし』で辿る是山（戦前編）」を開催します

熊本市名誉市民であり、本市の文芸振興に大きく貢献した「後藤是山」氏は、本年生誕 140 年、没後 40 年の節目を迎えました。
これを記念して、後藤是山記念館では企画展「後藤是山生誕 140 年・没後 40 年記念企画展「俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山」を開催しています。
このたび、企画展関連事業として、後藤是山氏の戦前期の活動を俳誌『かはがらし』の紙面を通して紹介する解説講話を開催します。

1　日　時　令和 8 年（2026 年）10 月 31 日(土)午後 1 時半～3 時



2　会　場　後藤是山記念館（中央区水前寺 2 丁目 6 番 10 号）

3　講　師　後藤是山記念館　館長　植木　英貴

4　内　容　「『かはがらし』で辿る是山（戦前編）」
後藤是山氏の前半生（戦前まで）の活動や功績について、氏が創刊・編集した俳誌『かはがらし』を中心に紹介します。

5　企画展　後藤是山生誕 140 年・没後 40 年記念企画展
俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山
会期：令和 8 年(2026 年)9 月 5 日から令和 9 年(2027 年)2 月 2 日
会場：後藤是山記念館

6　今後の関連事業
戦後期の活動を紹介する「『東火』で辿る是山（戦後編）」を令和 8 年（2026 年）11 月 28 日（土）午後 1 時 30 分～３時で開催予定。

7　取材に当たっての留意点
駐車台数に限りがありますので、公共交通機関等をご利用ください。

8　備　考　『かはがらし』は後藤是山氏が熊本で創刊・編集した俳誌です。戦時中の一時休刊を経て戦後に『東火』へ改題され発行が続けられました。



【お問い合わせ先】
文化市民局　文化創造部　文化財課
電話：０９６－３２８－２７４０
課長：福居　浩一（ふくい　こういち）
担当：師富　国博（もろどみ　くにひろ）

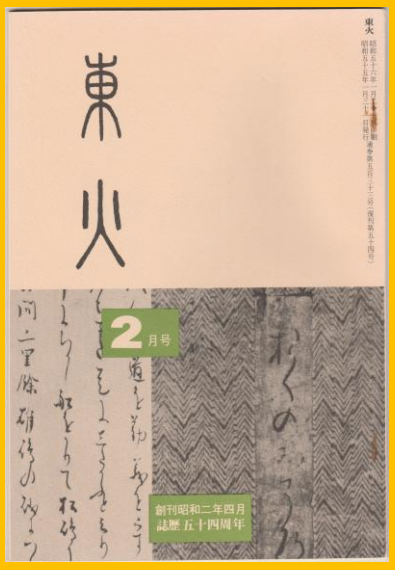
後藤是山生誕１４０年・没後４０年記念企画展

俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山

令和８年　９月５日～令和９年　２月２８日



南画家小室翠雲の描いた「たんぽぽ」が表紙となった『かはがらし』創刊号。（昭和2年4月1日発行）



『東火』第533号（昭和56年1月31日発行）。この号が最終号となった。（是山、94歳）

〈企画展解説講話のご案内〉

第１回：令和８年１０月３１日(土)午後１時３０分～３時

内容・『かはがらし』で辿る是山（戦前編）

第２回：令和８年１１月２８日(土)午後１時３０分～３時

内容・『東火』で辿る是山（戦後編）

解説者：後藤是山記念館長　植木英貴

場　所：後藤是山記念館展示室

※当日は駐車場がないため公共交通機関をご利用ください。

会場　後藤是山記念館

熊本市中央区水前寺２丁目６－１０

開館日時：９:３０～１６:３０
休館日　：月曜日（祝日の場合は翌日）
　　年末年始（１２／２９～11/３）

入館料：大人２００円　こども１００円
（市内６５歳の方及び市内小中学生は無料）

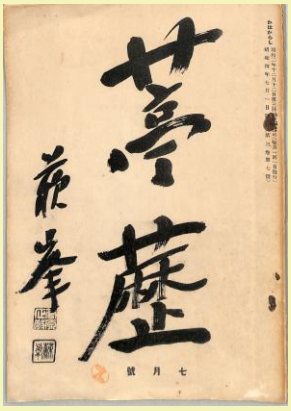
俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山

後藤是山の活動の大きな柱の一つは俳人としての活動です。

もともと是山は短歌から始め、大正十年（一九二一年）に与謝野寛、晶子の『明星』の同人となります。

それと並行し俳句活動も活発に行い、昭和二年（一九二七年）四月、是山が四十歳の時、俳人末次青雉（すえつぐせいち）らと共に俳誌『かはがらし』を創刊します。そして昭和十九年に『東火』と改称し、九十四歳になる昭和五十六年（一九八一年）一月まで、五十四年間にわたって発行し続けました。

令和八年（二〇二六年）は是山の生誕一四〇年、没後四〇年の年です。そこで俳誌『かはがらし』と『東火』で是山の半生をたどります。



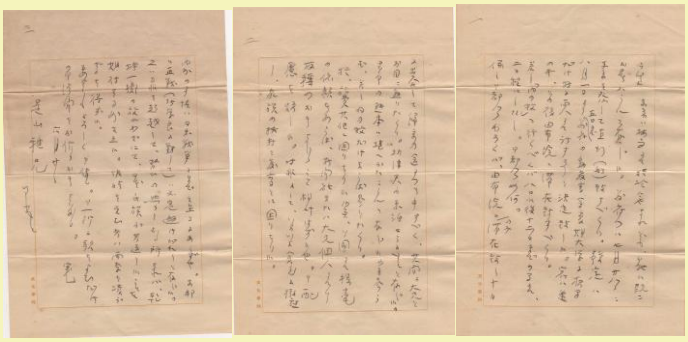
『かはがらし』
昭和4年7月号
是山の良き理解者であった徳富蘇峰。この号から蘇峰の揮毫した「葷薤」が昭和13年まで表紙に使われました。



昭和41年5月5日の草枕『峠の茶屋跡』記念碑除幕式
夏目漱石生誕100年となる昭和41年、是山は東火句友、地元の河内芳野村野出（当時。現在の熊本市西区河内町野出）の有志などの協力を得て、草枕『峠の茶屋跡』記念碑の建立を行いました。



与謝野寛、晶子夫妻らとともに（久住登山口にて）
夫妻は昭和6年に続き昭和7年にも久住を訪問しました。左から是山、晶子、寛（後ろ）、中央は是山の父、萬太郎。右から2人目がのちに久住町長となる工藤元平（号：久泉）。



与謝野寛から是山へ送られた大分出張を知らせる書簡（昭和7年6月20日付）
この書簡には、寛が「旅費其の他に困りおり候ゆえ、御国にて揮毫依頼者があらば、御取纏めおき下され候」などとあり、寛と是山の親しさが窺えます。

《後藤是山生誕140年・没後40年記念企画展》

俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山

令和8年9月5日～令和9年2月28日

後藤是山記念館

熊本市中央区水前寺2丁目6-10
TEL096－382－4061

Google Map

